

研究成果の社会還元促進に関する発表会

+ 異分野交流カフェ

2025/ 2/10 (月)

14:00 ~ 16:00 終了後~異分野交流カフェ(16:10~17:00)

会場：武庫川女子大学中央キャンパス 公江記念館 地下1階 大講義室 KM-B109
(発表会はZoomによる参加も可 異分野交流カフェは対面参加のみ)

武庫川女子大学における多様な分野の研究成果をお聞きいただける機会を設けました。

発表ごとに質疑応答時間も設定しております。

お気軽にご参加ください。

発表会終了後、異分野交流カフェ(女性活躍総合研究所主催)を開催します。異分野の研究者と新しい研究のタネを探してください。

お申込み
はこちら



<https://forms.gle/dPuBDVDTQcXGtw8w5>

発表順	発表者	タイトル
1	経営学科 助教 藤井 善仁	地域の復興プロセスにおけるジェンダー・ギャップの実態調査 - 令和6年能登半島地震被災地の調査結果から -
2	英語グローバル学科 教授 田中 真由美	CLILを活用した工学系英語教育に関する研究成果の社会還元 - SSH指定校での実践 -
3	薬学科 講師 堀山 志朱代	アルド・ケト還元酵素標的治療薬の迅速かつ確実なスクリーニング開発 - 抗癌剤のターゲットとなるアルド・ケト還元酵素の阻害効果を基質と質量分析で評価する -
4	日本語日本文学科 准教授 設楽 馨	子ども食堂の交流拠点機能 - 漢字・食育融合教材の開発と実践による教育効果の評価 -
5	英語グローバル学科 准教授 三宅 弘晃	ビジネス英語教育モデルの構築 自学自習の実態と方法の検討 - 学習者の効果的な英語習得のための自学自習の意義と方法の検証および考察 -
6	研究推進センター 研究員(名誉教授) 辻 和成	組織の英語ニーズに基づくビジネス英語教材の開発と実践例 - 国際実務に対応した企業向けおよび大学生向け英語教材制作の背景と意義 -
7	社会連携推進センター 特任教授 大坪 明	コロナ明け直後の武庫川団地住民の社会的孤立に関する考察 - LSNS-6指標に基づくアンケート調査の分析 -
8	看護学科 教授 藤田 優一	こどもの入院時の付き添いに関する実態調査 - 母親の入院満足度との関連要因 -
9	英語グローバル学科 准教授 三宅 弘晃	関西の女子大学2024年度シラバスに見られるHIV/AIDS教育の現状 - 第38回日本エイズ学会でのディスカッションを通じて得られた知見を加えて -
10	生活環境学科 教授 澤渡 千枝	バクテリアセルロースの物性改良による生活素材化の提案

武庫川女子大学 (西宮市池開町6-46)

主催 社会連携推進センター

共催 女性活躍総合研究所・研究推進センター

(社会連携推進センター)

Tel : 0798-45-9854 (直通)

E-mail : shakai@mukogawa-u.ac.jp

🔍 武庫川 社会連携

第9回 研究成果の社会還元促進に関する発表会

2025/2/10 (月) 14:00 ~ 武庫川女子大学

生活	産業	文化・芸術	[発表時間(予定)] 発表者	概要 / 関連するSDGs(持続可能な開発目標)17の目標
○			[14:03 ~ 14:15] 経営学科 助教 藤井 善仁	本研究は、令和6年能登半島地震の被災地を対象に、復興プロセスに対する認識や態度における性別の差異を定量的に分析したものであり、復興プロセスにおける未来志向の形成メカニズムに性差が存在する可能性を分析したものである。 
		○	[14:15 ~ 14:27] 英語グローバル学科 教授 田中 真由美	CLILを活用した工学系英語教育に関する共同研究の成果を基に、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受けた兵庫県内の2校で、STEAM特別講座と英語のポスタープレゼンテーションの指導を行った。 
○			[14:27 ~ 14:39] 薬学科 講師 堀山 志朱代	アルド・ケト還元酵素群中の癌マーカーとして注目されるAKR1B10を阻害する薬物の、補酵素を用いた評価法にかかわる質量分析法を用いた効率的評価システムの構築と構造誘導型創薬に向けた分子モデリングへの応用 
○			[14:39 ~ 14:51] 日本語日本文学科 准教授 設楽 馨	A市の子ども食堂で、地域住民と大学生の交流を通して、食生活向上と学習の機会を創出してきた。小学生と大学生の食育プログラム開発と、食育を題材とする日本語教材開発を紹介し、交流した大学生の変化を発表する。 
			[14:51 ~ 15:03] 英語グローバル学科 准教授 三宅 弘晃	本発表では、南雲堂から発刊された会議英語教材を使用して実施した自学自習方法に関する調査結果に基づきその効果を考察する。本調査研究は、科研費事業で進めている体系的ビジネス英語教育モデルの構築の一環である。 
		○	[15:03 ~ 15:15] 研究推進センター 研究員(名誉教授) 辻 和成	本発表では、筆者が中心となり開発した社会人向けおよび大学生向けのビジネス英語教材を紹介する。その基盤として、企業の英語事情を診断した科研費事業に加え、先行して実施した社内通訳による英語使用の省察や、組織の英語力強化を目的としたアクションリサーチの成果がある。 
			[15:15 ~ 15:27] 社会連携推進センター 特任教授 大坪 明	コロナ明け直後の武庫川団地での調査で住民の約半数が社会的孤立状態との結果が出た。その一原因が友人関係の希薄さで、また社会的孤立層は、居住年数、同居人数、経済的余裕、共食頻度、主観的幸福度が少なかった。 
○			[15:27 ~ 15:39] 看護学科 教授 藤田 優一	こどもが入院をした際に付き添いをした経験がある母親を対象に、付き添いの状況と入院満足度との関連を明らかにするため、webアンケート調査を行った。入院環境によって満足度に差があることが明らかとなった。 
○			[15:39 ~ 15:51] 英語グローバル学科 准教授 三宅 弘晃	本研究では、関西の女子大学のシラバス分析に基づき、正規科目においてHIV/STI感染症が十分に扱われていない現状を概観し、学生への予防行動促進が課題となっている事実を示す。また、社会連携を通じて大学が担うべき役割を検討・提言する。 
○			[15:51 ~ 16:03] 生活環境学科 教授 澤渡 千枝	微生物が産生するセルロース(バクテリアセルロース、BC)は、ナタデココとして有名ですが、バイオナノファイバーとしての用途拡大が期待されています。ここではBCを原料としたスポンジ状素材や、皮革様素材などのエコマテリアルを提案します。 